

第140回エイズ動向委員会

委員長コメント

《平成26年第4四半期》

【概要】

1. 今回の報告期間は平成26年9月29日～平成26年12月28日までの約3か月
2. 新規HIV感染者報告数は265件（前回報告291件、前年同時期295件）  
そのうち男性254件、女性11件で、男性は前回（279件）及び前年同時期（282件）より減少、女性は前回（12件）及び前年同時期（13件）より減少
3. 新規AIDS患者報告数は117件（前回報告119件、前年同時期108件）  
そのうち男性111件、女性6件で、男性は前回（112件）より減少、前年同時期（101件）より増加、女性は前回（7件）及び前年同時期（7件）より減少
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は382件

【感染経路・年齢等の動向】

1. 新規HIV感染者：
  - 同性間性的接触によるものが185件（全HIV感染者報告数の約70%）
  - 異性間性的接触によるものが42件（全HIV感染者報告数の約16%）  
そのうち男性32件、女性10件
  - 静注薬物によるものは1件（うち、その他に計上されているものが1件）
  - 母子感染によるものは1件
  - 年齢別では、20～30代が多い。
2. 新規AIDS患者：
  - 同性間性的接触によるものが63件（全AIDS患者報告数の約54%）
  - 異性間性的接触によるものが29件（全AIDS患者報告数の約25%）  
そのうち男性25件、女性4件
  - 静注薬物によるものは3件（うち、その他に計上されているものが2件）
  - 年齢別では、30～40代が多い。

【検査・相談件数の概況（平成26年10月～12月）】

1. 保健所におけるHIV抗体検査件数（確定値）は28,752件  
（前回報告確定値26,275件、前年同時期確定値34,161件）  
自治体を実施する保健所以外の検査件数（確定値）は8,817件  
（前回報告確定値7,786件、前年同時期確定値8,916件）
2. 保健所等における相談件数（確定値）は38,181件  
（前回報告確定値36,673件、前年同時期確定値43,820件）

【献血の概況（平成26年1月～12月）】

1. 献血件数（速報値）は、4,999,090件（前年同時期速報値5,205,819件）
2. そのうちHIV抗体・核酸増幅検査陽性件数（速報値）は62件（前年同時期速報値63件）  
10万件当たりの陽性件数（速報値）は、1.240件（前年同時期速報値1.210件）

## 《まとめ》

1. 前回に比し、新規H I V感染者報告数は減少した。また、新規A I D S患者報告数はほぼ横ばいであった。
2. 新規H I V感染者は20～30代、新規A I D S患者は30～40代で報告数が多いが、いずれも10～70代までの幅広い年齢層において報告が認められた。性別・年齢を問わず、H I Vに感染する可能性がある。適切な予防策により感染を予防することが可能であり、また重要である。
3. 早期発見は個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつくので、今後も保健所等の無料・匿名H I V抗体検査および相談を積極的に利用していただきたい。

## 《平成26年 年間報告（速報値）》

### 【概要】

1. 今回の報告期間は平成25年12月30日～平成26年12月28日までの約1年（四半期ごと速報値の合計）
2. 新規HIV感染者報告数は1,075件で過去4位
3. 新規AIDS患者報告数は445件で過去5位
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は1,520件で過去5位  
※これまでの最高は、平成25年（確定値）でHIV感染者は、1,106件、AIDS患者484件、合計1,590件。

### 【感染経路・年齢等の動向（速報値）】

1. 新規HIV感染者：
  - 同性間性的接触によるものが778件（全HIV感染者報告数の約72%）
  - 異性間性的接触によるものが179件（全HIV感染者報告数の約17%）
  - 静注薬物によるものは8件（うち、その他に計上されているものが5件）
  - 母子感染によるものは2件
  - 年齢別では、特に20～30代が多い。
2. 新規AIDS患者：
  - 同性間性的接触によるものが255件（全AIDS患者報告数の約57%）
  - 異性間性的接触によるものが115件（全AIDS患者報告数の約26%）
  - 静注薬物によるものは6件（うち、その他に計上されているものが2件）
  - 母子感染によるものは1件
  - 年齢別では、特に30歳以上が多い。なお、50歳以上が約26%を占めている。

### 【検査・相談件数の概況（平成26年1月～12月）】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査件数（確定値）は145,048件で過去4位（過去最高は平成20年177,156件）
2. 保健所等における相談件数（確定値）は150,993件で過去13位（過去最高は平成20年230,091件）

### 《まとめ》

1. 平成26年は速報値ではあるが、ここ数年間、新規HIV感染者報告数と新規AIDS患者報告数を合わせて1,500件台で推移しており、横ばい傾向である。
2. 新規HIV感染者及び新規AIDS患者報告の感染経路としては、性的接触によるものが8割以上を占めている。HIV感染症は予防が可能な感染症である。HIVに感染していない者においては、適切な予防策をとること、HIVに感染した者においては、まずは自分の感染を知ることが、今後の感染拡大を防ぐために重要となる。国民の皆様には、保健所の無料・匿名での相談や検査の機会を積極的に利用頂きたい。
3. 平成26年は速報値ではあるが、保健所等におけるHIV抗体検査件数及び相談件数は、平成25年に続き増加した。保健所等におけるHIV抗体検査件数に対する陽性件数の割合は横ばい傾向であった。
4. 速報値ではあるが、献血における10万件当たりの陽性者件数は過去3年間でほぼ横ばいであった。血液製剤によるHIV感染を防ぐため、HIV感染症が疑われる場合、国民の皆様には保健所での無料・匿名検査を積極的に利用頂きたい。
5. 新規HIV感染者・AIDS患者報告数に占めるAIDS患者報告数の割合は、約3割のまま推移している。早期発見は個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつく。自治体におかれては、エイズ予防指針を踏まえ、引き続き利便性に配慮した検査相談体制を推進していただきたい。